

フットサル競技規則

Futsal Laws of the Game 2008

* 本年FIFAは、「フットサル競技規則」の改正を行わなかったため、2008年のままとされている

フットサル競技規則 2009/2010

総目次

■ フットサル競技規則	1
■ 審判員のための追加指示およびガイドライン	63
■ フットサル競技規則に関する質問と回答	73
■ 日本語版付録	129
■ 各協会連絡先	201

はじめに

“Futsal Laws of the Game（フットサル競技規則）”は、国際サッカー連盟（FIFA）から発行されているもので、FIFAおよびFIFAに加盟している各大陸連盟や各国協会の下で開催されるフットサルは、すべてこの規則に基づいて行われる。

フットサルの競技規則は、国際サッカー評議会（IFAB）との合意によって、同評議会小委員会とFIFAフットサル・ビーチ委員会の協調の下、サッカーと比べピッチが小さいことや競技者数が少ないことから生まれるフットサルの特長や公正さをより引き出すべく制定され、改正されているものである。

日本語の競技規則は、この改正後にFIFAから送られてきた英語版を（財）日本サッカー協会の責任において、サッカーの競技規則と平仄をとりつつ日本語に翻訳し、また全体の体裁も基本的に原本どおりとしている。したがって、日本語版で解釈等に疑義が生じた場合は、英語版をもって解釈することとする。

本年FIFAは、フットサルの競技規則の改正を行わなかった。しかし、日本語版については、よりの確な審判ができ、多くのフットサル関係者が理解を深められるよう、一部刷新を行った。フェアプレー精神を追求するフットサルの審判をする、あるいは競技をするために参照していただきたい。

（財）日本サッカー協会はJリーグと共に、ファプレーの原点となる「リスペクト（大切に思うこと）」を推進している。フットサル競技規則は、審判員や審判指導者のみならず、競技者、加盟チームの役員などサッカーに関わるすべての人たちにとって必要不可欠なものであり、大切に思い、遵守していくもの（リスペクト）である。

本書にある競技規則および付属する様々な内容を十分に理解し、安全で誰もが楽しめるようなフットサルをいたるところで繰り広げていただきたい。ひいては、それがフットサルの更なる健全な発展に資することになる。

2009年 8 月
財団法人日本サッカー協会

修正

関係する各国協会の合意が得られており、また競技規則の基本原則が尊重されていれば、16歳未満の競技者、女性、年長者(35歳以上)および障害のある競技者の試合では競技規則の適用に当たって修正を加えることができる。

以下の一部またはすべてに修正ができる。

- ピッチの大きさ
- ボールの大きさ、重さ、材質
- ゴールポストの間隔とクロスバーのピッチ面からの高さ
- 試合時間
- 交代

これ以外の修正は、国際評議会の同意があった場合にのみ認められる。

男性と女性

競技規則では主審や第2 審判、第3 審判、タイムキーパー、競技者、役員について、すべて男性で表記されているが、これは簡略化のためであって、いずれも男性、女性の両方に適用されるものである。

(注：日本語訳には、性別がない)

符号

競技規則の中で次の符号が使われている。

- * 第8条—プレーの開始および再開の「特別な状況」の規定を参照する。
条文、競技規則の改正を表わす。

目次

	ページ
第1条 ピッチ	6
第2条 ボール	13
第3条 競技者の数	16
第4条 競技者の用具	19
第5条 主審および第2 審判	21
第6条 タイムキーパーおよび第3 審判	23
第7条 試合時間	27
第8条 プレーの開始および再開	29
第9条 ボールインプレーおよびボールアウトオブプレー	33
第10条 得点の方法	34
第11条 ファウルと不正行為	35
第12条 フリーキック	41
第13条 累積ファウル	43
第14条 ペナルティーキック	47
第15条 キックイン	50
第16条 ゴールクリアランス	52
第17条 コーナーキック	54
試合またはプレーオフの勝者を決定する方法	56
審判のシグナル	58
審判員のための追加指示およびガイドライン	63

第1条 ピッチ

大きさ

ピッチは、長方形とする。タッチラインの長さは、ゴールラインの長さより長い。

長さ： 最小25m
 最大42m
幅： 最小15m
 最大25m

国際試合

長さ： 最小38m
 最大42m
幅： 最小18m
 最大25m

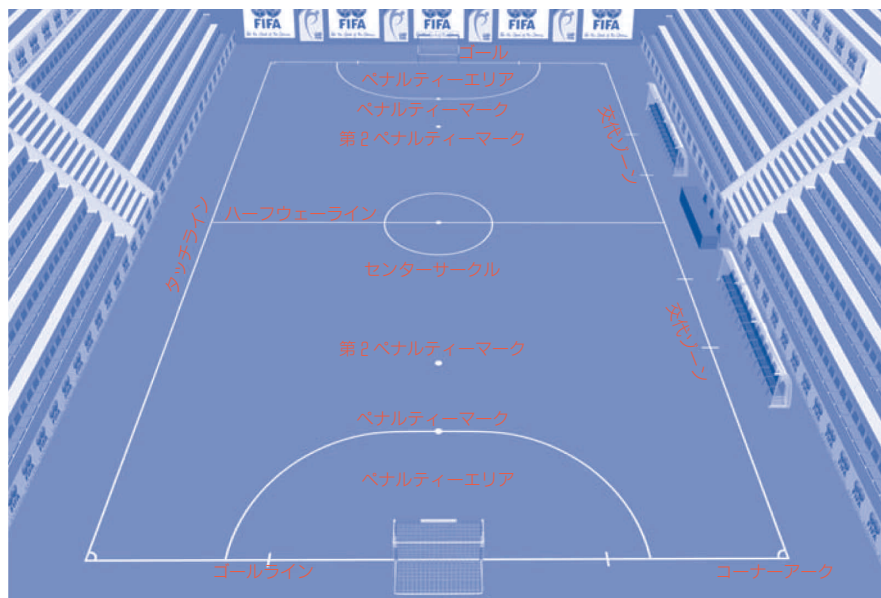
ピッチのマーキング

ピッチはそのエリアの一部であって、エリアの境界を示すラインでマークする。長い方の2本の境界線をタッチライン、短い方の2本の境界線をゴールラインという。

すべてのラインの幅は、8 cmとする。

ピッチをハーフウェーラインで半分ずつに分けるものとする。
ハーフウェーラインの中央にセンターマークをしるす。^{a)} これを中心に半径3 mのサークルを描く。

ピッチおよびその付帯設備は、次の図に示すとおりである。



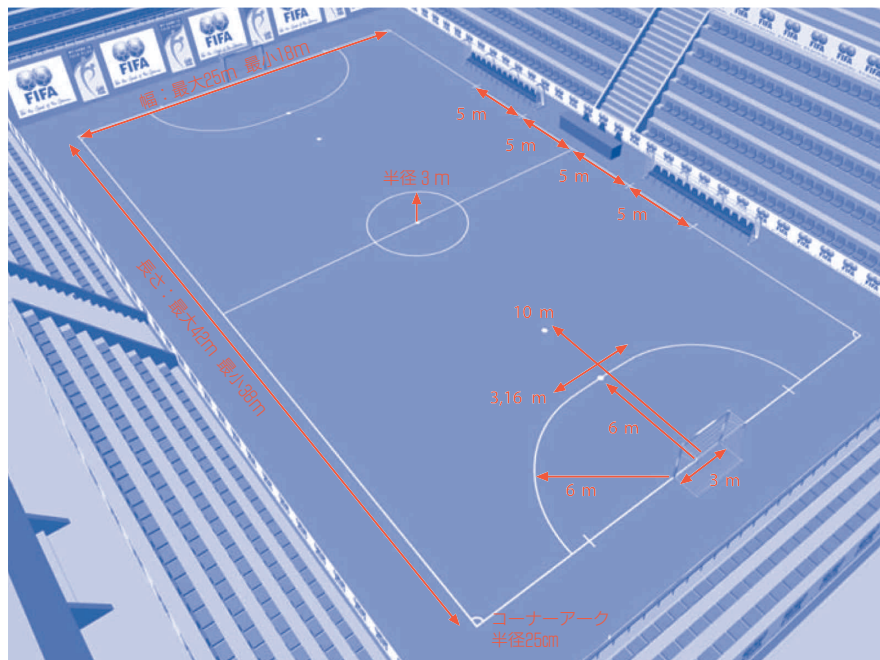
第1条 ピッチ

ペナルティーエリア

ピッチの両端に、次のようにペナルティーエリアを設ける。

それぞれのゴールポストの外側を中心として、半径6 mの四分円をゴールポストの外側のゴールラインから、ゴールラインに直角に描いた仮想ラインのところまで描く。それぞれの四分円の先端を、ゴールポストの間のゴールラインに平行な3.16 mのラインによって結ぶ。

ペナルティーエリアの外枠を描く曲線をペナルティーエリアラインとする。



ペナルティーマーク

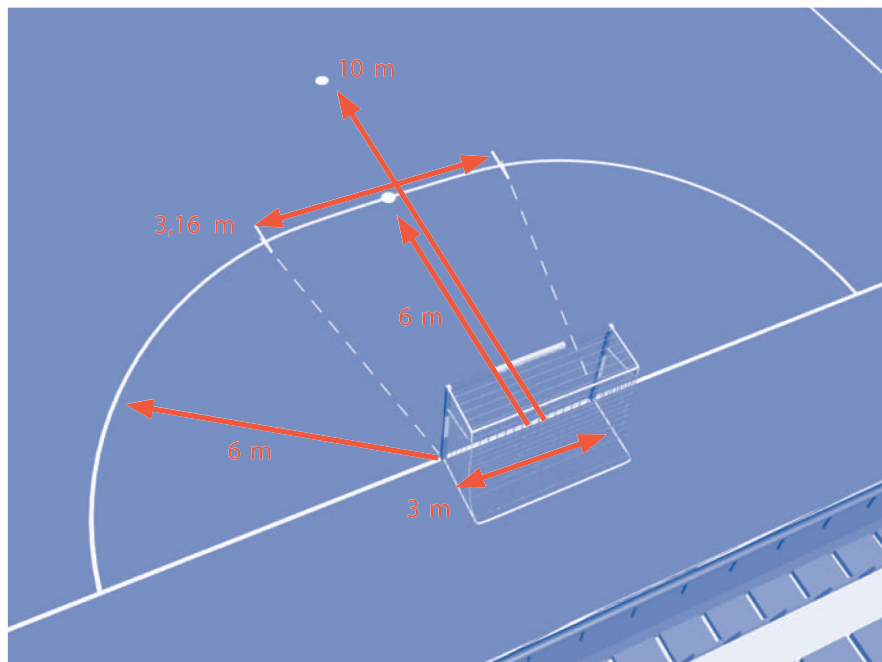
両ゴールポストの中央から 6 m で、両ゴールポストから等距離のところにペナルティーマークを描く。 a)

第 2 ペナルティーマーク

両ゴールポストの中央から 10 m で、両ゴールポストから等距離のところに第 2 ペナルティーマークを描く。 a)

コーナーアーク

それぞれのコーナーに半径 25 cm の四分円をピッチ内に描く。

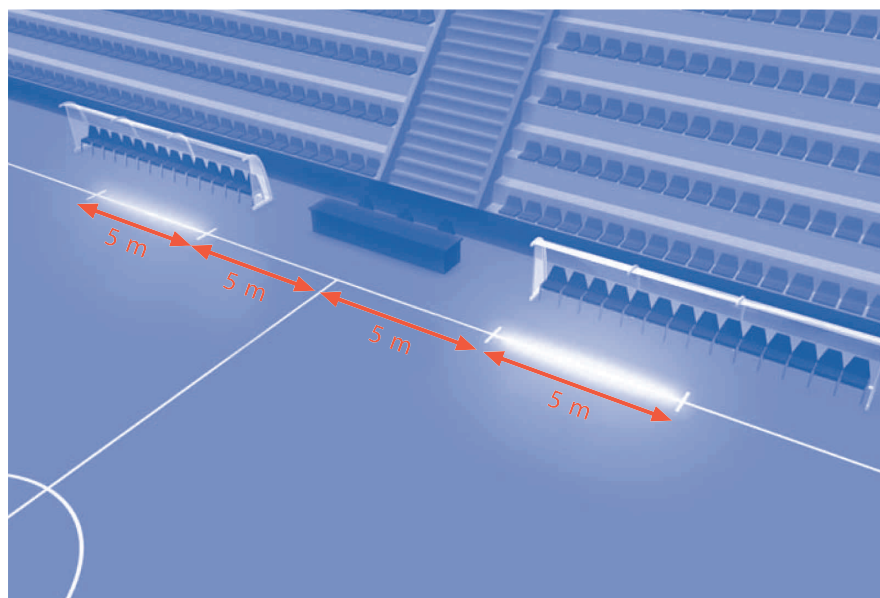


第1条 ピッチ

交代ゾーン

チームベンチ側のタッチラインで、それぞれのチームベンチの直前に交代ゾーンを設ける。競技者は、交代のために、ここから出入りする。

- 交代ゾーンは、チームベンチの直前に設け、その長さはそれぞれ5 mとする。その両端をタッチラインに直角に幅8 cm、長さ80 cmで描く。80 cmのうち40 cmをピッチの内側、40 cmをピッチの外側に描く。
- ハーフウェーラインとタッチラインの交点と各交代ゾーンの近い側の端との距離は、5 mである。タイムキーパーの机の前のフリースペースは、空けておくものとする。



ゴール

ゴールは、それぞれのゴールラインの中央におく。ゴールは、それぞれのコーナーから等距離に垂直に立てられた 2 本のポストとその頂点を結ぶ水平なクロスバーとからなる。

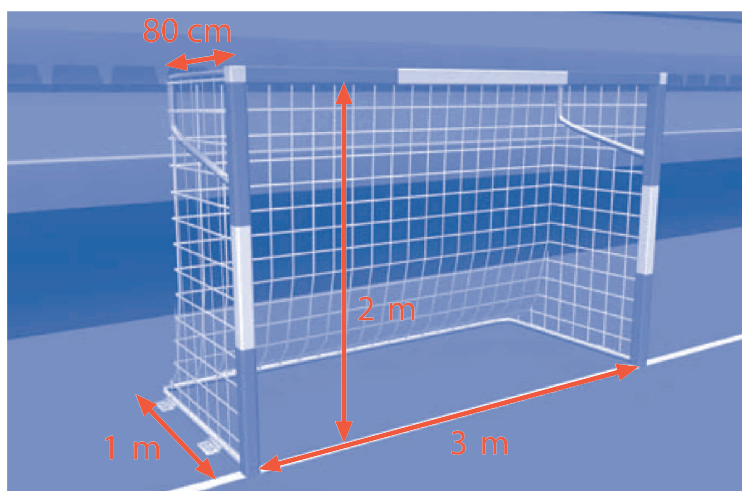
ポストの間隔（内側間）は 3 m で、クロスバーの下端からピッチ面までの距離は 2 m である。

ゴールポストとクロスバーは同じ幅と同じ厚さで、8 cm とする。ゴールラインの幅はゴールネットとクロスバーと同じ幅とする。麻、ジュートまたはナイロン製のネットをゴールポストとクロスバーの後方に取り付ける。ゴールの下部は、湾曲したパイプまたは他の適当な形状物で支持する。

ゴールの奥行きは、ゴールポストの内面からピッチの外に向かって、上部において 80 cm 以上、ピッチ面において 100 cm 以上とする。

安全

ゴールには、転倒防止のために安定させる仕組みが施されているものとする。移動式ゴールは、固定式ゴールと同様に安定させ得る場合に限り使用することができる。



ピッチの表面

表面は、滑らかかつ平坦で、摩擦のないものとする。木または人工材質のものの使用が薦められる。コンクリートやアスファルトは、避けるべきである。

決定

1. ゴールラインの長さが15mから16mの場合、ペナルティーエリアの半径は4 mとする。この場合、ペナルティーマークは、ペナルティーエリアを示すライン上ではなく、両ゴールポストの中央点から6 mで、両ゴールポストから等距離のところとする。
2. コーナーキックを行うときの距離を確実に守らせるため、コーナークから5 m離れたところに、ピッチの外側にゴールラインと直角なマークを描く。このマークの幅は、8 cmである。^{b)}
3. 第2ペナルティーマークからのフリーキックが行われるときに遵守すべき距離を示すため、第2ペナルティーマークから両側5 mの距離のところに、ふたつの追加的マークをつける。このマークの幅は、6 cmである。^{c)}
4. チームベンチは、タッチラインの後方で、タイムキーパーの机の前のフリースペースに隣接する。

(財)日本サッカー協会の決定

- a) センターマーク、ペナルティーマークおよび第2ペナルティーマークは、直径20cmの円で描く。
- b) このマークは、ゴールラインから5 cm離して直角に30cmの長さで描く。5 mの距離は、コーナークの外側からこのマークのゴール側の端までとする。
- c) このマークは、第2ペナルティーマークからゴールラインに平行に5 m離して6 cm四方で描く。

第2条 ボール

品質と規格

ボールは、次のものとする。

- 球形
- 皮革またはその他の適切な材質
- 外周は、64cm以下62cm以上
- 重さは、試合開始時に440 g 以下400 g 以上
- 空気圧は、海面の高さで0.4～0.6気圧 (400～600 g /cm²)



欠陥が生じたボールの交換

試合中にボールが破裂する、またはボールに欠陥が生じた場合、

- 試合を停止する。
- ボールに欠陥が生じたときの地点で交換したボールをドロップして、試合を再開する。*

インプレー中ではない（キックオフ、ゴールクリアランス、コーナーキック、フリーキック、ペナルティーキックまたはキックイン）ときにボールが破裂する、またはボールに欠陥が生じた場合、

- 競技規則に従って試合を再開する。

試合中、ボールは主審の承認を得ずに交換できない。

決定

- 1 フェルト製のボールは、国際試合では認めない。
- 2 ボールは、2 mの高さから落下させたとき、最初のバウンドが50cm以上、65cm以下の範囲ではね返るものとする。

公式試合においては、第2条に規定されている最低限の仕様を満たすボールだけが使用できる。

ボールは、第2条の要件に加え、FIFAや各大陸連盟の主催下で行われる公式競技会の試合において、次のいずれかのロゴが付けられていることを条件として使用が認められる。

- ・公式の“FIFA承認”のロゴ
- ・公式の“FIFA検定”のロゴ
- ・“国際試合ボール基準”のロゴ

これらのロゴは、第2条に規定されている最低限の仕様に加えて、ロゴ別に規定された技術的要件を満たしていることが公式にテストされて証明されていることを示している。ロゴ別に定められた追加要件のリストは、国際サッカー評議会によって承認されたものでなければならない。テストを実施する検査機関はFIFAによって承認される必要がある。

加盟協会の競技会は、これら3つのロゴのいずれかを付けたボールの使用を要求することができる。

その他のすべての試合において使用されるボールは第2条の要件を満たさなければならない。

協会がその競技会において“FIFA承認”または“FIFA検定”のロゴを付けたボールの使用を義務づける場合、その協会はロイヤリティーが不要の「国際試合ボール基準」のマークを付けたボールの使用も認める。

FIFAの競技会ならびに各大陸連盟および加盟協会の主催下で行われる公式競技会の試合では、ボールに一切の商業広告を付けることは認められない。ただし、競技会、競技会の主催者のエンブレムおよびメーカーの承認された商標は認められる。競技会規定において、これらのマークのサイズと数を制限することができる。

第3条 競技者の数

競技者

試合は、5人以下の競技者からなる2つのチームによって行われる。チームの競技者のうちの1人は、ゴールキーパーである。

交代の手続き

競技者の交代は、FIFA、大陸連盟または加盟協会のもとで行われるすべての試合で認められる。

交代要員は、最大7人までとする。

試合中に行われる交代の回数は、制限されない。

一度交代で退いた競技者は交代要員となり、他の競技者と交代してピッチに戻ることができる。

交代は、インプレーまたはアウトオブプレー中に行われ、次の条件が遵守されなければならない。

- ピッチを出る競技者は、自分自身のチームの交代ゾーンから出る。
- ピッチに入る競技者も、自分自身のチームの交代ゾーンから入る。ただし、ピッチを出る競技者が完全にタッチラインを越えて外に出るまで、ピッチに入ることができない。
- 交代要員は、出場する、しないにかかわらず、審判員の権限および管轄下にある。
- 交代は、交代要員がピッチ内に入ったときに完了し、その瞬間から、その交代要員は競技者として有効となり、退いた競技者は競技者として有効ではなくなる。

ゴールキーパーは、他のどの競技者とも入れ替わることができる。

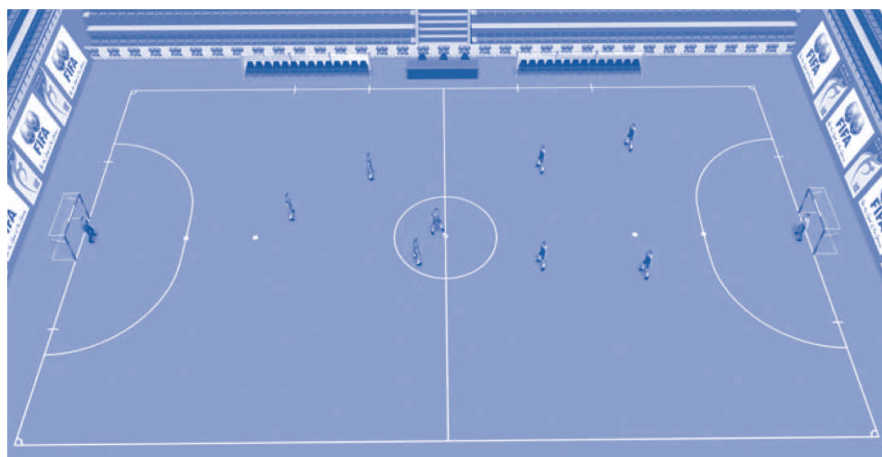
違反と罰則

交代が行われるとき、交代する競技者がピッチから完全に出る前に交代要員がピッチ内に入った場合、

- プレーを停止する。
- 交代する競技者に、ピッチの外に出るように指示する。
- 交代要員に警告を与え、イエローカードを示すとともに交代手続を正しくするためピッチから離れるよう命じる。
- 試合を停止したときにボールのあった場所から、相手チームによって行われる間接フリーキックによりプレーを再開する。*

交代が行われるとき、自分自身の交代ゾーン以外の場所から交代要員がピッチ内に入る、または交代する競技者がピッチを出た場合、

- プレーを停止する。
- 違反をした競技者に警告を与え、イエローカードを示すとともに交代手続を正しくするためピッチから離れるよう命じる。
- 試合を停止したときにボールのあった場所から相手チームによって行われる間接フリーキックによりプレーを再開する。*



決定

- 1 試合開始時には、両チームとも5人の競技者がいる。
- 2 退場によっていずれかのチームの競技者の数が3人未満（ゴールキーパーを含む）になった場合、試合を放棄しなければならない。
- 3 1人のチーム役員は、試合中、技術的指示を与えることができる。しかしながら、チーム役員は競技者や審判の動きを妨げてはならず、常に責任ある態度で行動する。また、テクニカルエリアが設置されている場合、テクニカルエリア内にとどまっている。
- 4 テクニカルエリアは、特にチーム役員と交代要員のために座席が設置される施設で試合が行われる場合のものである。テクニカルエリアは、施設の大きさなどによって異なるが、サイズなどについて、以下の点を一般的な指針として示す。
 - テクニカルエリアは、特定された座席部分から両横に1 m、前方にタッチラインから75cmの範囲である。
 - エリアを明確にするためにマーキングをすることが勧められる。
 - テクニカルエリアに入ることのできる人数は、競技会規定によって規定される。
 - テクニカルエリアに入ることのできる者の氏名は、競技会規定に従って試合開始前に特定される。
 - その都度ただ1人の役員のみが戦術的指示を伝えることができる。指示を与えたのち、所定の位置に戻らなければならない。
 - トレーナーや医師が競技者の負傷の程度を判断するため主審または第2審判からピッチに入る承認を得た場合などの特別な状況を除いて、監督およびその他のチーム役員は、エリア内にとどまっていなければならない。
 - 監督およびその他テクニカルエリアに入る者は、責任ある態度で行動しなければならない。

第4条 競技者の用具

安全

競技者は、自分自身または他の競技者に危険となるような用具やその他のもの（あらゆる装身具を含む）を身に着けない。

基本的な用具

競技者が身につけなければならない基本的な用具は次のものであり、それぞれ個別のものである。

- ジャージまたはシャツ-アンダーシャツを着用する場合、その袖の色はジャージまたはシャツの袖の主たる色と同じでなければならない。
- ショーツ-アンダーショーツを着用する場合、その主たる色はショーツの主たる色と同じでなければならない。
- ソックス
- すね当て
- 靴-キャンバスまたは柔らかい皮革製で、靴底がゴムまたは類似の材質のトレーニングシューズまたは体育館用シューズのタイプのみが許される。

すね当て

- すね当ては、ソックスによって完全に覆われている。
- 適切な材質（ゴム、プラスチックまたは類似のもの）で作られている。
- それ相応の保護に役立つ。

ゴールキーパー

- ゴールキーパーは、長いトラウザーズを着用することが許される。
- それぞれのゴールキーパーは、他の競技者および審判員と容易に区別がつく色の服装をする。
- フィールド競技者がゴールキーパーと入れ替わる場合、競技者が着用するゴールキーパーのジャージにはその競技者自身の背番号を付ける。

第4条 競技者の用具

違反と罰則

本条の違反に対して、

- 主審または第2 審判は、違反をした競技者にピッチから離れて用具を正すように、または身に付けていない用具を身に付けるように指示する。その競技者は、審判員の1人に通知し、用具が適正であることが確認された後でなければピッチに戻ることができない。

プレーの再開

違反した競技者を警告するために主審または第2 審判がプレーを停止した場合、主審または第2 審判がプレーを停止したときにボールがあった場所から、相手側の競技者がける間接フリーキックでプレーを再開する。

決定

- 1 競技者はスローガンまたは広告の描かれているアンダーシャツを見せてはならない。基本的な用具には、政治的、宗教的または個人的なメッセージをつけてはならない。
- 2 スローガンや広告を見せるためにジャージーを脱いだ競技者は、大会の主催者によって罰せられる。基本的な用具に、政治的、宗教的または個人的なメッセージをつけた競技者のチームは、競技会的主催者またはFIFAにより罰せられる。
- 3 ジャージーには、袖がなければならない。

第5条 主審および第2審判

主審と第2審判の権限

試合は、任命された試合に関して競技規則を施行する一切の権限を持つ主審と第2審判の2人によってコントロールされる。

職権と任務

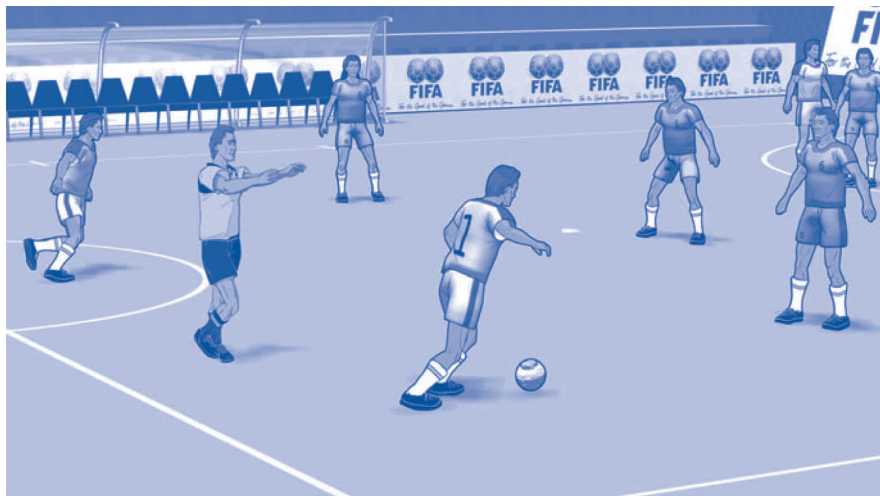
主審と第2審判は、

- 競技規則を施行する。
- 反則をされたチームがアドバンテージによって利益を受けるときは、プレーを続けさせる。しかし、そのときに予期したアドバンテージが実現しなかった場合は、そのもととなった違反を罰する。
- 試合の記録を取り、試合前、試合中、また試合後に起こった出来事および競技者、またはチーム役員に対してとった懲戒措置について、関係機関あて報告する。
- 警告や退場となる違反を行った競技者に懲戒措置をとる。
- 不正行為を働いたチーム役員に懲戒措置をとる。また、必要であれば、レッドカードを示すことなく、ピッチのあるエリアから退かせる。
- 認められていない者がピッチ内に入らないようにする。
- 競技者が重傷を負ったと主審または第2審判が判断した場合、試合を停止し、その負傷者をピッチから運び出させるようにする。
- 競技者の負傷が軽いと主審または第2審判が判断した場合は、ボールがアウトオブプレーになるまでプレーを続けさせる。
- 使用するすべてのボールが第2条の要件に適合するようにする。
- 競技者が同時に二つ以上の反則を犯した場合、より重大な反則を罰する。

主審は、

- タイムキーパーがいない場合、その任務を担う。
- フットサル競技規則のあらゆる違反に対して、または外部からのなんらかの妨害があった場合、試合を停止し、一時的に中断し、または中止する。

第5条 主審および第2審判



主審または第2審判による決定

プレーに関する事実についての主審の決定は、得点となったかどうか、また試合結果を含め最終である。

主審または第2審判は、決定が正しくないことに気付いたとき、または決定を変える必要があると判断した場合、プレーを再開する前、または試合を終結する前であれば、決定を変えることができる。

決定

- 1 主審と第2審判が同時に反則の合図をし、どちらのチームを罰するかに不一致があった場合、主審の判定が最終となる。
- 2 主審と第2審判は、ともに競技者に警告および退場を命ずることができる。しかし、両者の間に不一致があった場合、主審の決定が最終となる。
- 3 第2審判による不法な干渉または不当な行為があった場合、主審はその第2審判を解任し、代替を補充し、関係機関に報告書を提出する。
- 4 第2審判も笛を持ち、主審とは反対側のサイドのピッチで任務を行う。
- 5 国際試合においては、必ず第2審判を置かなければならない。

第6条 タイムキーパーおよび第3審判

任務

タイムキーパー1人と第3審判1人が任命され、交代ゾーンがある側のピッチの外で、ハーフウェーラインのところに位置する。

タイムキーパーと第3審判は、正確な時計（ストップウォッチ）およびファウルの累積を表示するために必要な機器を用いる。試合を行うピッチがあるところの協会またはクラブが、これらの機器を用意する。

タイムキーパー

- 次により、第7条に規定された試合時間で試合が行われるようにする。
 - キックオフの後に時計（ストップウォッチ）をスタートする。
 - ボールがアウトオブプレーになったとき、時計を止める。
 - キックイン、ゴールクリアランス、コーナーキック、フリーキック、ペナルティーマークおよび第2ペナルティーマークからのキック、タイムアウト、またはドロップボールの後、時計を再スタートさせる。
- 1分間のタイムアウトを確認する。
- 競技者が退場を命じられたときの実質2分間の罰則時間を確認する。
- 前半の終了、試合の終了、延長戦の前後半の終了およびタイムアウトの終了を、主審、第2審判の笛と区別できる笛またはその他の音で合図する。
- チームからタイムアウトが要求されたとき、第3審判に知らせたのち、主審、第2審判の笛と区別できる笛またはその他の音で合図する。
- 各チーム5つ目の累積ファウルを、第3審判に知らせたのち、主審、第2審判の笛と区別できる笛またはその他の音で合図する。

第6条 タイムキーパーおよび第3審判



第3 審判

第3 審判は、タイムキーパーを援助する他、次のことを行う。

- 審判が反則とした前半、後半各チームそれぞれ5 つまでの累積ファウルを記録し、いずれかのチームが5 つ目の累積ファウルを犯したときに合図する。
- 各チームがとることのできるタイムアウトを記録するとともに、主審、第2 審判およびチームに知らせる。また、各チームの役員から要求があったとき、タイムアウトの承認することを合図する（第7 条）。
- 試合の停止とその理由を記録する。
- 試合に参加する競技者を記録する。
- 得点した競技者の番号を記録する。
- 警告、退場を命じられた競技者の番号と氏名を記録する。
- 主審、第2 審判の要請により、ボールの交換を監視する。
- 必要であれば、交代要員がピッチに入る前に用具を検査する。
- 主審、第2 審判の視野外で、警告や退場に関し明らかな誤りがあったときや、乱暴な行為が犯された場合、主審や第2 審判にシグナルする。いずれの場合でも、主審、第2 審判はプレーに関する事実について判断する。
- チームベンチに着席している者の行為を監視すると共に不適切な行動について主審や第2 審判に知らせる。
- その他、試合に関する情報を提供する。

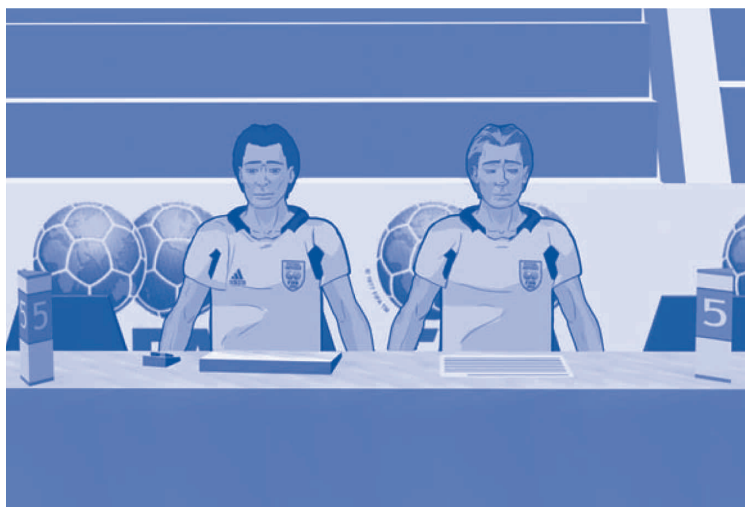
タイムキーパーまたは第3 審判による不法な干渉があった場合、主審は任務を行う上問題ある者を解任し、代替を補充し、関係機関に報告書を提出する。

主審または第2 審判が負傷した場合、第3 審判は第2 審判と入れ代る。

第6条 タイムキーパーおよび第3審判

決定

- 1 国際試合においては、タイムキーパーと第3審判を必ず置かなければならない。
- 2 国際試合において使用する時計（ストップウォッチ）は、必要な機能のすべてを備える（正確な計時と2分間の罰則時間を4人の競技者について同時に計時でき、各チーム、各ハーフのファウルの累積を表示できるもの）。
- 3 第3審判が置かれない場合、タイムキーパーが第3審判に特定された任務も担う。



第7条 試合時間

プレーの時間

試合は、前、後半の20分ずつ行われる。

計時は、その任務について第6条に規定しているタイムキーパーが行う。

前、後半を問わず、ペナルティーキックや相手チームが累積ファウルを5つ超えて犯したときに行われる直接フリーキックの終了まで時間を追加する。



タイムアウト

各チームは、前、後半それぞれ1分間のタイムアウトを要求できる。タイムアウトには、次の条件が適用される。

- 両チームのチーム役員は、第3審判に対し1分間のタイムアウトを要求できる。
- 1分間のタイムアウトはいつでも要求できるが、タイムアウトを要求するチームがボールを保持しているときに限り認められる。
- タイムキーパーは、ボールがアウトオブプレーのときに、タイムアウトの許可を主審が用いるものとは区別できる笛またはその他の音で合図する。
- タイムアウトが与えられたとき、交代要員はピッチから離れていなければならない。競技者は、タイムアウト終了時にのみ交代できる。チーム役員は、指示を与えるためにピッチに入ることはできない。
- チームが試合の前半にタイムアウトを要求しなくても、後半に要求できるタイムアウトは1回のみである。

ハーフタイムのインターバル

ハーフタイムのインターバルは、15分を超えてはならない。

決定

- 1 第3審判またはタイムキーパーが置かれていない場合、チーム役員は主審にタイムアウトを要求することができる。
- 2 通常の時間の後に競技会規定により延長戦が行われる場合、延長戦ではタイムアウトは取れない。

第8条 プレーの開始および再開

試合前

コインをトスし、トスに勝ったチームが試合の前半に攻めるゴールを決める。他方のチームが、試合開始のキックオフを行う。トスに勝ったチームは、試合の後半開始のキックオフを行う。

試合の後半の開始時に両チームはエンドをかわり、前半と反対のゴールを攻める。

キックオフ

キックオフは、次のときに、プレーを開始する、または再開する方法である。

- 試合開始時
- 得点ののち
- 試合の後半開始時
- 延長戦が行われる場合、その前、後半の開始時

キックオフから直接得点することができる。

進め方

- すべての競技者は、ピッチの味方半分内にいる。
- キックオフをするチームの相手チームは、ボールがインプレーになるまで3 m以上ボールから離れなければならない。
- ボールは、センターマーク上に静止している。
- 主審が合図をする。
- ボールは、けられて前方に移動したとき、インプレーとなる。
- キッカーは、他の競技者がボールに触れるまではボールに再び触れない。

一方のチームが得点をあげたのち、他方のチームがキックオフを行う。

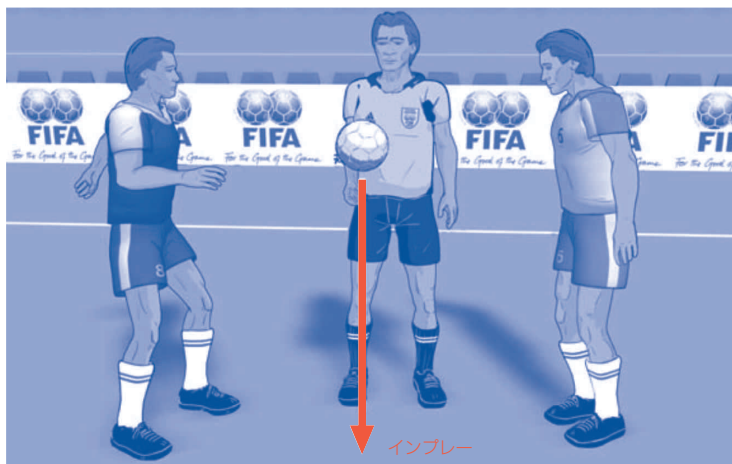
第8条 プレーの開始および再開

違反と罰則

他の競技者がボールに触れる前にキッカーがボールに再び触れた場合、

- 違反の起きた場所から行う間接フリーキックを相手チームに与える。*

キックオフの進め方のその他の違反に対しては、キックオフを再び行う。



ドロップボール

ドロップボールは試合を再開する方法のひとつで、ボールがインプレーのときに、ボールがタッチラインやゴールラインを越える前に、競技規則に他に規定されていない理由によって必要が生じた一時的な停止したのちに行う。

進め方

主審または第2審判は、プレーを停止したとき、ボールのあった場所でボールをドロップする。

ボールがピッチに触れたときにプレーが再開される。*

違反と罰則

次の場合、ボールを再びドロップする。

- ボールがピッチ面に触れる前に、競技者がボールに触れる。
- ボールがピッチ面に触れたのちに、競技者が触れることなくピッチの外に出る。

第8条 プレーの開始および再開

特別な状況

自分のペナルティーエリア内で与えられた守備側チームのフリーキックは、ペナルティーエリア内の任意の地点から行う。

相手のペナルティーエリア内で与えられた攻撃側チームの間接フリーキックは、違反の起きた地点に最も近いペナルティーエリアライン上から行う。

ペナルティーエリア内でプレーを一時的に停止したのちに試合を再開する場合、ドロップボールは、プレーを停止したときにボールのあった位置に最も近いペナルティーエリアライン上で行う。

第9条 ボールインプレーおよびボールアウトオブプレー

ボールアウトオブプレー

ボールは、次のときにアウトオブプレーとなる。

- ピッチ上または空中にかかわらず、ボールがゴールラインまたはタッチラインを完全に越えた。
- 主審または第2審判がプレーを停止した。
- ボールが天井に当たる。

ボールインプレー

これ以外のすべての時間は、次の場合も含めて、ボールはインプレーである。

- ボールがゴールポスト、クロスバーからはね返ってピッチ内にある。
- ボールがピッチ内にいる主審または第2審判のいずれかに当たる。

決定

- 1 屋内のピッチで試合が行われているときにボールが天井に当たった場合、最後にボールに触れたチームの相手チームに与えられるキックインにより試合を再開する。キックインは、ボールが当たった天井下の場所に最も近いタッチライン上から行う。
- 2 天井の高さは4 m以上なければなく、競技会規定に明記される。

第10条 得点の方法

得点

ゴールキーパーを含む攻撃側の競技者が手や腕を用いて、ボールを投げ、運び、または意図的に押し進めた場合を除き、ゴールポストの間とクロスバーの下でボールの全体がゴールラインを越えたとき、その前にゴールにボールを入れたチームが競技規則の違反を犯していなければ、1得点となる。

勝利チーム

試合中により多くの得点をあげたチームを勝ちとする。両チームが同点か、共に無得点の場合は、試合は引き分けである。

競技会規定

勝利チームを決定して試合を終了させると競技会規定に規定している、またはプレーオフが引き分けで終了した場合、次の手続きのみが考慮される。

- アウェーでの得点数
- 延長戦
- ペナルティーマークからのキック

決定

試合またはプレーオフの勝者決定のために競技会規定に明記できるのは、FIFAが承認し、この競技規則に規定される手続きのみである。

ファウルと不正行為は、次のように罰せられる。

直接フリーキック

競技者が次の7項目の反則を、不用意に、無謀に、または過剰な力で犯したと主審または第2審判が判断した場合、直接フリーキックが相手チームに与えられる。

- 相手競技者をける、またはけろうとする。
- 相手競技者をつまずかせる、またはつまずかせようとする。
- 相手競技者に飛びかかる。
- 相手競技者をチャージする。
- 相手競技者を打つ、または打とうとする。
- 相手競技者にタックルする。
- 相手競技者を押す。

次の4項目の反則を犯したときも、直接フリーキックが相手チームに与えられる。

- 相手競技者を抑える。
- 相手競技者につばを吐く。
- 相手競技者がボールをプレーしている、またはプレーしようとしているときに、ボールをプレーしようとしてすべる（スライディングタックル）。ただし、不用意に、無謀に、または過剰な力で行わない限り、ゴールキーパーが自分のペナルティーエリア内で行うものを除く。
- ボールを手または腕で意図的に扱う。ただし、ゴールキーパーが自分のペナルティーエリア内にあるボールを扱う場合を除く。

直接フリーキックは、上記の反則の起きた場所から行う。ただし、フリーキックが守備側チームに対してそのペナルティーエリア内で与えられた場合、フリーキックはペナルティーエリア内のいずれの地点から行ってもよい。

上記の項目の反則は、累積ファウルである。

ペナルティーキック

競技者が自分自身のペナルティーエリア内で上記の項目の反則をインプレー中に犯した場合、ボールの位置に関係なく、ペナルティーキックが与えられる。

間接フリーキック

ゴールキーパーが次の項目の反則を犯した場合、間接フリーキックが相手チームに与えられる。

- ボールをクリアした後、ボールがハーフウェーラインを越える前に、または相手競技者によって触れられるかプレーされる前に、味方競技者から意図的にパスされたボールを受ける。
- 味方競技者によって意図的にゴールキーパーにキックされたボールを手で触れるか手でコントロールする。
- 味方競技者がキックインしたボールをゴールキーパーが直接手で触れるか手でコントロールする。
- 自分自身のハーフ内で、4秒を超えてボールを手または足で触れるかコントロールする。

競技者が次のことを行つたと主審または第2審判が判断した場合も、反則の起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる。

- 危険な方法でプレーする。
- 意図的に相手の前進を妨げる。
- ゴールキーパーがボールを手から離すのを妨げる。
- 競技者を警告する、または退場させるためにプレーを停止する違反で、11条のこれまでに規定されていないその他の違反を犯す。

間接フリーキックは、反則の起きた場所から行われる。*

懲戒の罰則

競技者または交代要員のみにレッドまたはイエローカードが示される。

主審および第2 審判は、ピッチに入ったその時から試合終了の笛を吹いたのちピッチを離れるまで、懲戒の罰則を行使する権限を持つ。

警告となる反則

競技者が次の項目の反則を犯した場合、警告される。

- 反スポーツ的行為
- 言葉または行動による異議
- 繰り返し競技規則に違反する
- プレーの再開を遅らせる
- コーナーキック、キックイン、フリーキックまたはゴールクリアランスでプレーが再開されるとき、規定の距離を守らない
- 主審または第2 審判の承認を得ずピッチに入る、復帰する、または交代の手続きに違反する
- 主審または第2 審判の承認を得ず意図的にピッチから離れる

交代要員が次の項目の反則を犯した場合、警告される。

- 反スポーツ的行為
- 言葉または行動による異議
- プレーの再開を遅らせる

退場となる反則

競技者または交代要員が次の項目の反則を犯した場合、退場が命じられる。

- 著しく不正なファウルプレー
- 乱暴な行為
- 相手競技者またはその他の者につばを吐く
- 意図的に手でボールを扱って、相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止する（ゴールキーパーが自分のペナルティーエリア内で行うものを除く）
- フリーキックまたはペナルティーキックとなる違反で、ゴールに向かっている相手競技者の決定的な得点の機会を阻止する
- 攻撃的な、侮辱的な、または口汚い発言や身振りをする
- 同じ試合の中で二つ目の警告を受ける

交代要員が次の反則を犯した場合、退場を命じられる。

- 相手チームの得点または得点の機会を阻止する

決定

- 1 退場を命じられた競技者は、引き続いてその試合に復帰することはいかならず、交代ベンチに着席することも許されない。ピッチの周辺からはなれたうえで、退場の後、完全に2分間が経過する前に得点がない場合、2分間が経過した後に補充の競技者は試合に入ることができる。補充のために入る競技者はタイムキーパーの承認を得るものとする。2分間経過する前に得点があった場合、次を適用する。
 - 競技者が5人対4人のとき、人数の多いチームが得点した場合、4人のチームは5人目の競技者を補充できる。
 - 両チームがともに4人の競技者でプレーしているときに得点のあった場合は、両チームとも同数の競技者のままとする。
 - 5人対3人または4人対3人の競技者でプレーしているとき、人数の多いチームが得点をした場合、3人のチームは1人だけ競技者を補充できる。
 - 両チームがともに3人の競技者でプレーしているとき、得点のあった場合には、両チームとも同じ数の競技者のままとする。
 - 人数の少ないチームが得点した場合には、そのままの人数で試合を続ける。
- 2 第11条の規定に関連して、ゴールキーパーがボールをクリアしたのち、ボールがハーフウェーラインを越える、または相手競技者が触れるかプレーしていれば、競技者は頭や胸、膝などを使って味方のゴールキーパーにボールをパスすることができる。しかし、競技者が規則の裏をかくために意図的に策略を用いたと主審または第2審判が判断した場合には、その競技者は反スポーツ的行為を犯したことになる。競技者に警告を与え、イエローカードを示し、違反の起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる*
これらの場合、ゴールキーパーがそのボールに手で触れたか否かは関係しない。第11条の条文とその精神に反する策略を試みた競技者によって反則がなされたのである。

第11条 ファウルと不正行為

- 3 相手の安全に危険を及ぼすようなタックルは、著しく不正なファウルプレーとして罰せられる。
- 4 ピッチ上のどこであっても、主審を欺くことを意図したシミュレーションは、全て反スポーツ的行為として罰せられる。
- 5 得点を喜ぶためにジャージーを脱いだ競技者は、反スポーツ的行為で警告されなければならない。

第12条 フリーキック

フリーキックの種類

フリーキックは、直接と間接のいずれかである。

直接、間接フリーキックのいずれの場合も、キックが行われるときボールは静止しており、キッカーは、他の競技者がボールに触れるまで再びボールに触れることはできない。

直接フリーキック

直接フリーキックが行われ、ボールが相手ゴールに直接入った場合、得点となる。

間接フリーキック

ボールがゴールに入る前に、他の競技者に触れた場合にのみ、得点が与えられる。

フリーキックの位置

相手競技者は、ボールがインプレーとなるまで、ボールから5 m以上離れる。守備側チームがそのチームのペナルティーエリアからフリーキックを行うとき、すべての相手競技者は、そのペナルティーエリアの外にいる。ボールは、けられるか触れられてペナルティーエリアから出たのちインプレーとなる。

第12条 フリーキック

違反と罰則

フリーキックを行うとき、相手競技者が規定の距離よりボールの近くににいる場合、

- キックは、再び行われる。

ボールがインプレーとなって、他の競技者に触れる前に、キッカーが再びボールに触れた場合、

- 違反の起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる。*

フリーキックを行うチームが4秒を超えてキックを行った場合、

- 間接フリーキックが相手チームに与えられる。*

シグナル

直接フリーキック

- 主審または第2 審判は、キックが行われる方向に向けて一方の腕を水平に伸ばす。ファウルが累積ファウルである場合、その審判員は他方の手の人差し指でピッチ面を指し、第3 審判(またはオフィシャル机にいる他の審判員)に、それが累積ファウルとして数えられることをはっきりと知らせる。

間接フリーキック

- 主審および第2 審判は、一方の腕を頭上に上げて、間接フリーキックであることを示し、キックが行われ、そのボールが他の競技者に触れるかまたはアウトオブプレーになるまで、その腕を上げ続ける。

累積ファウル

- 累積ファウルは、第11条にある直接フリーキックで罰せられるものである。
- 各チームが犯した前、後半それぞれ5つまでの累積ファウルは、試合記録シートに記録される。
- 主審および第2 審判は、そのチームがまだ5つの累積ファウルを犯していない場合で相手チームが決定的な得点の機会を阻止されていない場合、アドバンテージ・ルールを適用することにより、プレーを続けさせることができる。
- 主審または第2 審判は、アドバンテージ・ルールを適用した場合、ボールがアウトオブプレーになったときに、すみやかにタイムキーパーと第3 審判に必須のシグナルを用いて累積ファウルを示す。
- 延長戦が行われる場合、後半の累積ファウルがそのまま有効となる。延長戦での累積ファウルは、そのチームの後半の累積ファウルに加算される。

フリーキックの位置

試合が累積ファウルで停止された場合、その数が前、後半、それぞれ各チーム5つまでは、

- 相手チームの競技者は、フリーキックに壁を作ることができる。
- 相手チームの競技者は、ボールがインプレーになるまで、ボールから5 m以上離れる。
- このフリーキックから直接相手ゴールに得点することができる。

第13条 累積ファウル



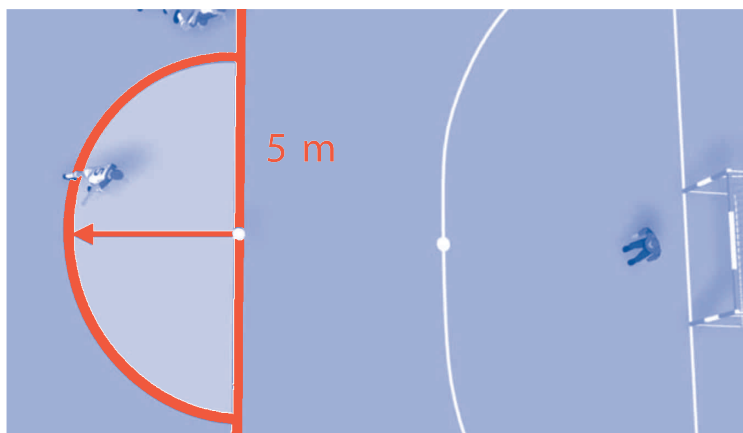
前、後半、それぞれ各チームの累積ファウルが6つ目を記録してからは、

- 相手チームの競技者は、フリーキックに対して壁を作れない。
- フリーキックを行う競技者は、正しく特定される。
- ゴールキーパーは、自分のペナルティーエリア内でボールから5m以上離れる。
- その他の競技者は、ピッチの中のペナルティーエリアの外で、ボールと同レベルでゴールラインと平行に引かれた仮想ラインの後方に留まる。また、ボールから5m離れなければならない、キックをする競技者を妨げてはならない。

ボールに触れるかプレーされるまで、競技者は仮想ラインを越えてはならない。

進め方(6つ目の累積ファウルと以降の累積ファウルの場合)

- フリーキックを行う競技者は、他の競技者にボールをパスすることなく得点を狙ってキックする。
- フリーキックが行われたのち、ゴールキーパーがボールに触れるかゴールポストかクロスバーからはね返る、またはピッチの外へ出たのちでなければ、競技者はボールに触れることができない。
- このフリーキックは、相手チームのハーフ内、または味方ハーフ内のゴールラインから10mの第2ペナルティーマークの位置に引かれるハーフウェーラインと平行な仮想ラインより前方で、それぞれのチームの6つ目となるファウルを犯したとき、第2ペナルティーマークから行われる。第2ペナルティーマークは、第1条に定める。このフリーキックは、上記の“フリーキックの位置”に従って行われる。
- 競技者の味方ハーフ内の10m仮想ラインとゴールラインとの間で、それぞれチームが6つ目のファウルを犯したとき、フリーキックを与えられたチームはキックを第2ペナルティーマークから行うか、またはファウルの起きた場所から行うか選択できる。
- 前、後半の終了時および延長戦の前、後半の終了時に行うフリーキックのために時間を追加する。



違反と罰則

守備側チームの競技者が本条に違反した場合、

- 得点にならなかった場合に限り、キックは再び行われる。
- 得点になった場合、キックは再び行われない。

キックを行う競技者の味方競技者が本条に違反した場合で、

- 得点になった場合、キックは再び行われる。
- 得点にならなかった場合、審判はプレーを停止し、違反が犯された場所から、守備側チームの間接フリーキックで試合を再開する。

キックを行う競技者が、ボールがインプレーとなったのち、本条に違反した場合、

- 違反の起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる。*

守備側チームの競技者と攻撃側チームの競技者がこの競技規則に違反した場合、

- フリーキックは、再び行われる。

ボールが前方にプレーされたのち、何か外部からの物に当たった場合、

- フリーキックは、再び行われる。

ボールがゴールキーパー、クロスバーまたはポストから跳ね返ったのち外部からの物に当たった場合、

- 主審または第2 審判はプレーを停止し、ボールが外部からのものに当たった場所でドロップボールによりプレーを再開する。*

第14条 ペナルティーキック

ペナルティーキック

直接フリーキックとなる反則を自分のペナルティーエリアの中で、インプレー中に犯したとき、相手チームにペナルティーキックを与える。

ペナルティーキックから直接得点することができる。

前、後半の終了時および延長戦の前、後半の終了時に行うペナルティーキックのために時間を追加する。

ボールと競技者の位置

ボールは、

- ペナルティーマーク上に置く。

ペナルティーキックを行う競技者は、

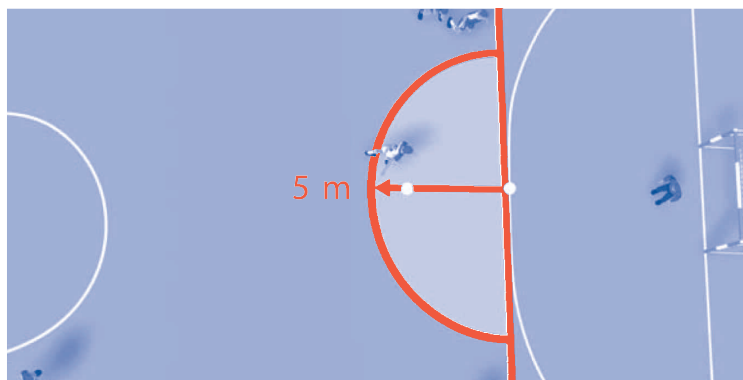
- 正しく特定される。

守備側のゴールキーパーは、

- ボールがけられるまで、キッカーに面して両ゴールポストの間のゴールライン上に留まる。

キッカー以外の競技者は、次のように位置する。

- ピッチ上
- ペナルティーエリアの外
- ペナルティーマークの後方
- ペナルティーマークから 5 m 以上離れる。



第14条 ペナルティーキック

進め方

- ペナルティーキックを行う競技者は、ボールを前方にける。
- ボールが他の競技者に触れるまで、キッカーは再びボールをプレーできない。
- ボールは、けられて前方へ移動したとき、インプレーとなる。

ペナルティーキックを通常の時間内に行う、または前、後半もしくは延長戦の時間を追加して再び行うとき、ボールが両ゴールポストの間とクロスバーの下を通過する前に、次のことがあっても得点が与えられる。

- ボールがゴールポスト、クロスバー、ゴールキーパーのいずれかまたはそれらに触れる。

違反と罰則

守備側競技者が本条に違反した場合、

- 得点にならなかった場合、キックは再び行われる。
- 得点になった場合、キックは再び行われない。

キックを行う競技者の味方競技者が本条に違反した場合で、

- 得点になった場合、キックは再び行われる。
- 得点にならなかった場合、主審または第2審判はプレーを停止し、違反が犯された場所から守備側チームの間接フリーキックで試合を再開する。*

ボールがインプレーになったのち、キックを行う競技者が競技規則に違反した場合、

- 違反の起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる。*

守備、攻撃両チームの競技者が競技規則に違反した場合、

- ペナルティーキックは、再び行われる。

ボールが前方に進行中、外的要因がボールに触れた場合、

- キックは、再び行われる。

ボールがゴールキーパー、クロスバー、ゴールポストからピッチ内にはね返ったのち、外的要因がボールに触れた場合、

- 主審または第2審判は、プレーを停止する。
- 外的要因がボールに触れた場所で、ボールをドロップしてプレーを再開する。*

第15条 キックイン

キックイン

キックインは、プレーを再開する方法のひとつである。

キックインから直接得点することはできない。

キックインは、

- ピッチ上または空中にかかわらず、ボールの全体がタッチラインを越えたとき、または天井に当たったときに与えられる。
- ボールがタッチラインを越えた場所から、キックが行われる。
- 最後にボールに触れた競技者の相手競技者に与えられる。

ボールと競技者の位置

ボールは、

- タッチライン上に静止させる。
- プレーに戻すため、任意の方向にけり入れることができる。

キックインを行う競技者は、

- ボールをキックするとき、いずれかの足の一部をタッチライン上またはタッチラインの外のピッチ面につける。

守備側のチームの競技者は、

- キックインを行う場所から 5 m 以上離れる。

進め方

- キックインを行う競技者は、ボールを受け取ってから4秒以内にキックインを行う。
- キックインを行った競技者は、他の競技者がボールに触れるまで、再びボールに触れることはできない。
- ボールは、ピッチに入ったとき、直ちにインプレーとなる。

違反と罰則

次の場合、間接フリーキックが相手チームに与えられる。

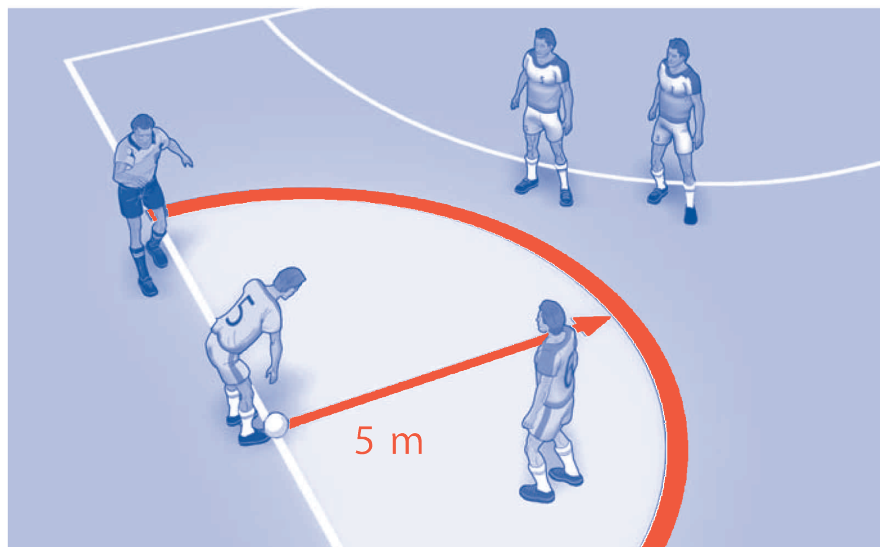
- 他の競技者がボールに触れる前に、キックインを行った競技者がボールを再び触れたとき、間接フリーキックは、違反の起きた場所から行われる。*

次の場合、相手チームの競技者によって再びキックインが行われる。

- キックインが正しく行われない。
- キックインが、ボールがタッチラインを越えた場所以外の位置から行われる。
- 競技者がボールを保持してから4秒以内にキックインを行わない。
- その他、本条に違反する。

相手競技者がキックインを正しくできないように干渉する、または妨害する場合、

- その競技者は、反スポーツ的行為で警告されイエローカードを示される。



ゴールクリアランス

ゴールクリアランスは、プレーを再開する方法のひとつである。

ゴールクリアランスから直接得点することはできない。

ゴールクリアランスは、

- 攻撃側のチームの競技者が最後にボールに触れ、ピッチ上または空中にかかわらず、ボールの全体がゴールラインを越え、第10条による得点とならなかったときに与えられる。

進め方

- 守備側チームのゴールキーパーがペナルティーエリア内の任意の地点からボールを投げる。
- 相手競技者は、ボールがインプレーになるまで、ペナルティーエリアの外にいないなければならない。
- ゴールキーパーは、他の競技者がボールに触れるまで、また、ボールがハーフウェーラインを越えたのちに味方競技者によって戻されなければボールを再びプレーできない。
- ボールは、ペナルティーエリアの外に直接投げられたとき、インプレーとなる。

違反と罰則

ボールがペナルティーエリアの外に直接投げられなかった場合、

- ゴールクリアランスは、再び行われる。

ボールが一度インプレーとなり、相手競技者が触れる、またはハーフウェーラインを越える前に、ゴールキーパーが再びボールに触れた場合、

- 違反の起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる。^{*}

ゴールキーパーがボールを保持して 4 秒以内にゴールクリアランスを行わなかった場合、

- 間接フリーキックが相手チームに与えられ、違反が起きた場所に最も近いペナルティーエリアラインからキックが行われる。

第17条 コーナーキック

コーナーキック

コーナーキックは、プレーを再開する方法のひとつである。

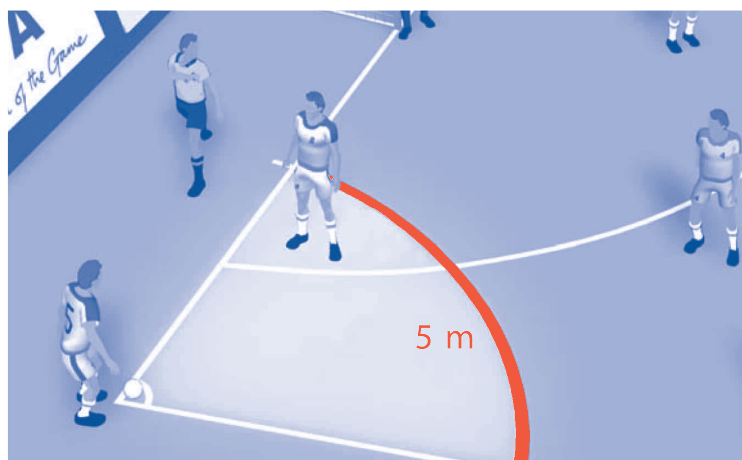
コーナーキックから、相手チームのゴールに限り、直接得点することができる。

コーナーキックは、

- 守備側チームの競技者が最後にボールに触れ、ピッチ上または空中にかかわらず、ボールの全体がゴールラインを越え、第10条による得点とならなかったときに与えられる。

進め方

- ボールは、出たところに近い方のコーナークラークの中に置かれる。
- 相手競技者は、ボールがインプレーになるまでコーナークラークから 5 m 以上離れる。
- 攻撃側の競技者がボールをける。
- ボールは、けられるか触れられたのち、インプレーとなる。
- キッカーは、他の競技者がボールに触れる前に、再びボールに触れてはならない。



違反と罰則

次の場合、間接フリーキックが相手チームに与えられる。

- 他の競技者に触れる前にコーナーキックを行った競技者がボールを再びプレーした場合、間接フリーキックは、違反の起きた場所から行われる。*
- コーナーキックを行う競技者がボールを保持してから 4 秒以内にコーナーキックを行わない場合、間接フリーキックがコーナーアークから行われる。

その他の違反に対して、

- コーナーキックが再び行われる。

試合またはプレーオフの勝者を決定する方法

試合またはプレーオフの勝者を決定する方法

アウェーゴール、延長戦およびペナルティーマークからのキックは、試合が引き分けに終わったのち、勝者となるチームを決めることが競技会規定によって要求されているとき、勝者を決定する方法である。

アウェーゴール

競技会規定には、ホームとアウェーで競技した後にゴール数が同じであるとき、アウェーの試合で得点したゴール数を2倍に計算する規定を設けることができる。

延長戦

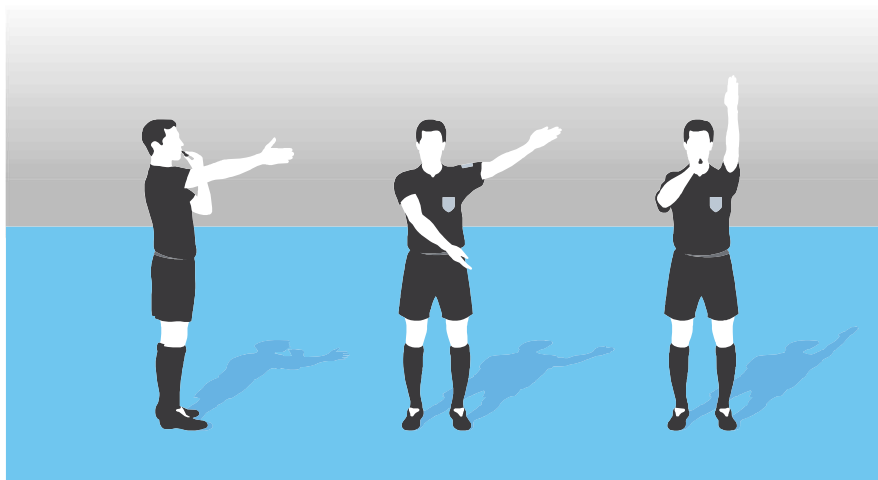
- 延長戦は、前後半、等しく5分間からなる。
- 一方のチームが相手チームより多く得点しなかった場合、試合はペナルティーマークからのキックで決定される。

ペナルティーマークからのキック

- 主審は、キックを行うゴールを選ぶ。
- 主審はコインをトスし、トスに勝った主将のチームが先にけるか後にけるかを定める。
- 主審、第3審判およびタイムキーパーは、行われたキックの記録をつける。
- 次の条件に従って、両チーム5本ずつのキックを行う。
- キックは、両チーム交互に行われる。
- 両チームが5本のキックを行う前に既に一方のチームの得点数が、他方が5本すべてのキックを行って得点できる数より上回った場合、以降のキックは行わない。
- 5本ずつのキックを行った後に両チームの得点が同じ場合は、同数のキックで一方のチームが他方より多くの得点をあげるまで、交互の順序を変えることなくキックは続けられる。

- すべての競技者と交代要員は、ペナルティーキックをける資格がある。
- 参加資格のある競技者は、ゴールキーパーと入れ替わることができる。
- それぞれのキックは、異なった競技者によって行われ、2回目のキックを行う前にすべての資格のある競技者がキックを行わなければならない。
- ペナルティーマークからのキックの進行中、参加資格のある競技者と審判員のみがピッチの中にいることができる。
- キックを行う競技者と2人のゴールキーパーを除くすべての競技者は、キックの行われている反対側のハーフの中にいる。
- キッカー側のゴールキーパーは、ピッチの中で、キックが行われているペナルティーエリアの外のペナルティーエリアラインとの交点のゴールライン上にいる。
- 他に記述されていない限り、競技規則および国際評議会の決定の関係諸条項がペナルティーマークからのキックが行われるときに適用される。
- 一方のチームが相手チームより競技者が多い人数で試合が終了したとき、競技者のより多いチームは相手チームの人数と等しくなるように競技者数を減らす。除外するそれぞれの競技者の氏名と、背番号を主審に通知する。チームの主将がこの責任を持つ。
- ペナルティーマークからのキックを開始する前に、主審は反対のハーフ内に両チームの同数の資格ある競技者のみがとどまっていることを確かめる。これらの競技者がキックを行うことになる。

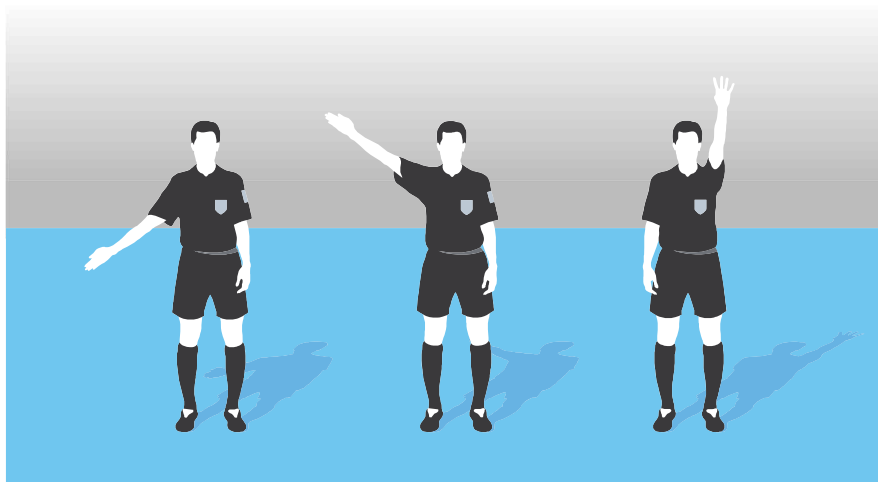
審判員のシグナル



試合の開始または得点後の再開
(キックオフ)

間接フリーキック

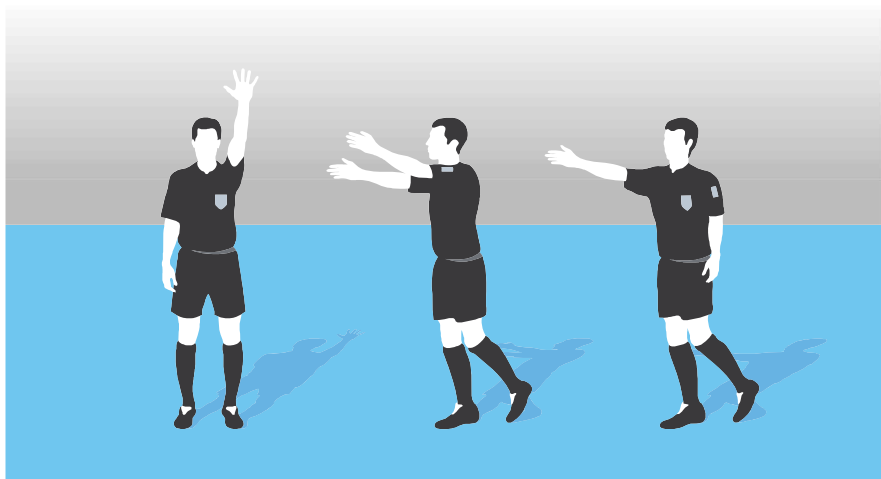
直接フリーキック
ペナルティーキック



コーナークick

キックイン

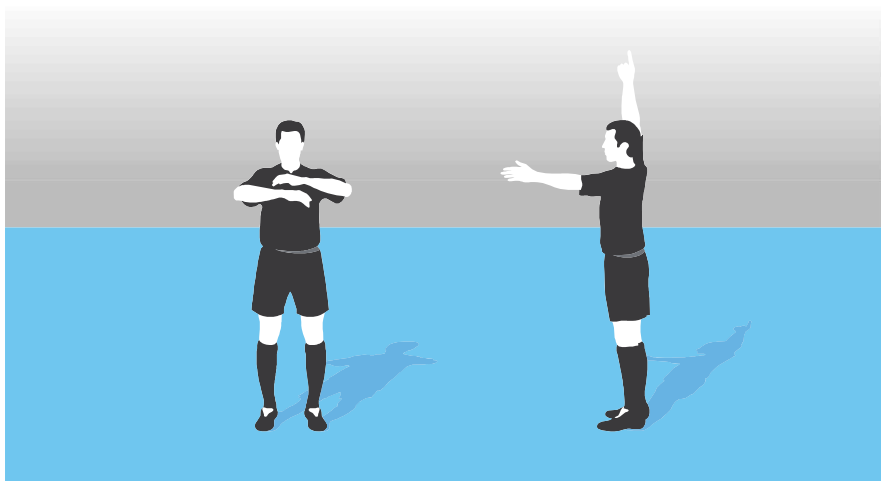
4秒のカウント



累積ファウル5つ目

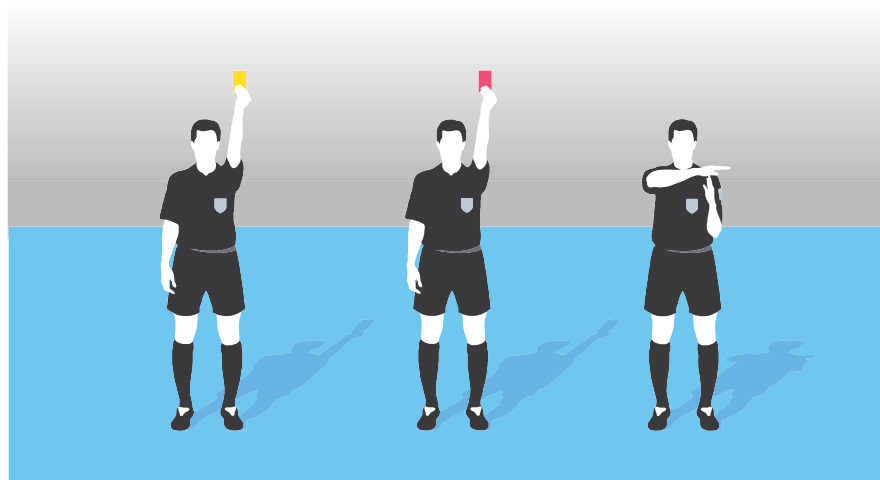
アドバンテージ
間接フリーキック

アドバンテージ
累積ファウル



アドバンテージ適用後の累積ファウル

審判員のシグナル



警告

退場

タイムアウト